

いわふねしぐさ大作戦

いわふねしぐさ第7弾 その1

～会話のしぐさ～

◎話し相手によって言葉づかいは変わります

◎聞き上手は話し上手（第9号で紹介します）

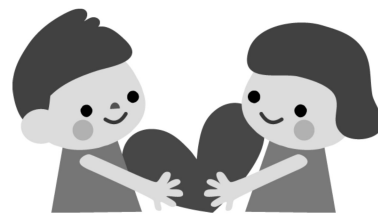
ていねい ことば つか
丁寧な言葉を使いましょう。

・丁寧語とは？

言い方を丁寧にして、話を聞いている相手への尊敬の気持ちを表します。
私たちがふつうに使っている「です」「ます」が基本です。
「ございます」は「です」「ます」より丁寧になります。

・言葉づかいは心づかい

お互いを理解するために言葉は大切なものです。
言葉によって励まされることもあるし、
傷つけられることもあります。
相手を思いやる気持ちで会話しましょう。



いわふねしぐさ実行委員会

事務局：栃木市岩舟教育支所内 TEL 0282-55-2500 FAX 0282-55-5065

何かお気づきの点やご意見がありましたら、お気軽にお問合せください。

みんなの一步で大きな家族、つながる「いわふね」

次の「会話」をどう思いますか？

ある日の放課後のこと、学校にお客さんが入ってきて、

「校長先生は、今、いるかい。」

とぼくに声をかけました。

「はい、いると思うけど、おまえだれ？」

と答えました。そのお客さんは、ポケットから名刺を出して

「私は校長先生の友人です。もし先生がひまなら会いたいんだが。」

と言いました。

「はい、校長先生に聞いてくるから、少し待ってて。」

と言って名刺を受け取り校長室のほうへ行きました。



この場面の会話が目に浮かびましたか？
どのように直したら良いでしょう。

- ①「校長先生は、今、いるかい」⇒「いらっしゃいますか」または「おられますか」
- ②「はい、いると思うけど」⇒「おられると思いますが」
- ③「おまえだれ？」⇒「どちらさまでですか？」
- ④「先生がひまなら会いたいんだが」⇒「お時間があればお会いしたいのですが。」
- ⑤「聞いてくるから、少し待ってて」⇒「うかがってまいります。少しお待ちください」



このように^{ていねい}丁寧な言葉を使い、
相手を思いやる気持ちで会話しましょう。

江戸しぐさ～具体例～

感謝の目つき



今の暮らしでもそうでしょうが、江戸の時代でも目は口ほどにモノを言い、わけても「ありがとう」の感謝の気持ちは、自ずと目に表れ、その心が伝わるといえるものです。誰かに世話になったとき、ありがとうの言葉以上に、気持ちが伝わると言われているのが『感謝の目つき』です。目で感謝の気持ちを表す（表情）と、相手も嬉しい気持ちになるものです。